



写真 1. オーロラ



写真 2. 幻日



写 真 3. 氷島 T-3 の一部

北氷洋にはいくつかの巨大な氷島が漂流し時には消失する。いくつかの氷島のうち T-3 には1952年以來アメリカの観測基地が設けられ、海洋、気象、地磁気等に関する貴重な観測が続行されている。

この写真は観測に参加した北大低温科学研究所楠宏助教授により提供されたもので撮影は六車二郎氏である。

#### 写 真 1. オーロラ

北氷洋の氷島 T-3 は北緯 72° 付近にあり、オーロラの最大頻発地帯にあたる。晴れた暗夜であれば、あらゆる型のオーロラを見ることができる。太陽は11月中旬より 1 月下旬まで水平線下に没するが、オーロラは地方時の22時頃によく見られる。

#### 写 真 2. 幻 日

左が太陽、右が幻日で冬期間太陽が水平線近くにあればよく見られる。大気中の氷晶のみならず、地ふぶきの雪片による幻日も現われる。左手遠くの丘は旧キャンプ地で建物の残骸などのため下の氷が融けず10メートル近くの小山になっている。

#### 写 真 3. 空から見た氷島 T-3 の一部

夏になると氷島は砂泥で汚れた部分と白い氷の部分とがはっきりする。かつてエルスメア (ELLESMERE) 島の棚氷として存在していた時に陸地から風で運ばれた砂泥のためである。左手にあるのが IGY の時のキャンプ。白いパドルの発達した多年性河氷が凍りついている。沖合には開水面と流氷がある。氷島は大きさが約 10×20km、氷厚 50m。1960 年 5 月チュクチ海の大陸棚（水深 40m）に乗り上げ一部が分離した。